

新田原基地におけるF-35Bの垂直着陸訓練の実施について

- F-35Bの訓練について、これまで、新田原基地においては、
 - ・ 短距離離陸の訓練を行う場合を除き、平素は通常離陸を行い、緊急時等を除き通常は垂直着陸は行わない方針である
 - ・ 馬毛島基地の運用開始に最低限必要な部分の整備が整った以降は、同基地において垂直着陸訓練を行う
 旨をご説明してきました。

馬毛島の施設整備完了（令和11年度末）までの措置について

- F-35Bが実施する垂直着陸を区分すると以下のとおりと考えています。

実施内容	①緊急時に安全に着陸するための垂直着陸訓練 (機種転換やその後の技量維持のため)	②緊急時の垂直着陸	③艦艇以外への着陸にかかる練度向上のための垂直着陸訓練	④艦艇への着陸にかかる練度向上のための模擬艦艇着艦訓練
------	---	-----------	-----------------------------	-----------------------------

※ 機種転換の対象者は、既に他の戦闘機の操縦の経験を積んだ操縦士。

- 今般、馬毛島の施設整備について工程を精査したところ、**全体の完了が令和11年度末になる見込み**と判明し、当面、馬毛島での訓練が行えないことを踏まえ、改めて検討した結果、以下の訓練を新田原基地で実施させていただきたいと考えています。
- 具体的には、厳しい安全保障環境も踏まえ、**F-35Bの運用に万全を期すため、①緊急時に備えた垂直着陸訓練のほか、③練度向上のための最低限の垂直着陸訓練も実施させていただきたい**と考えています（最低限の夜間訓練も含まれます）。これを図示すると以下のとおりです。

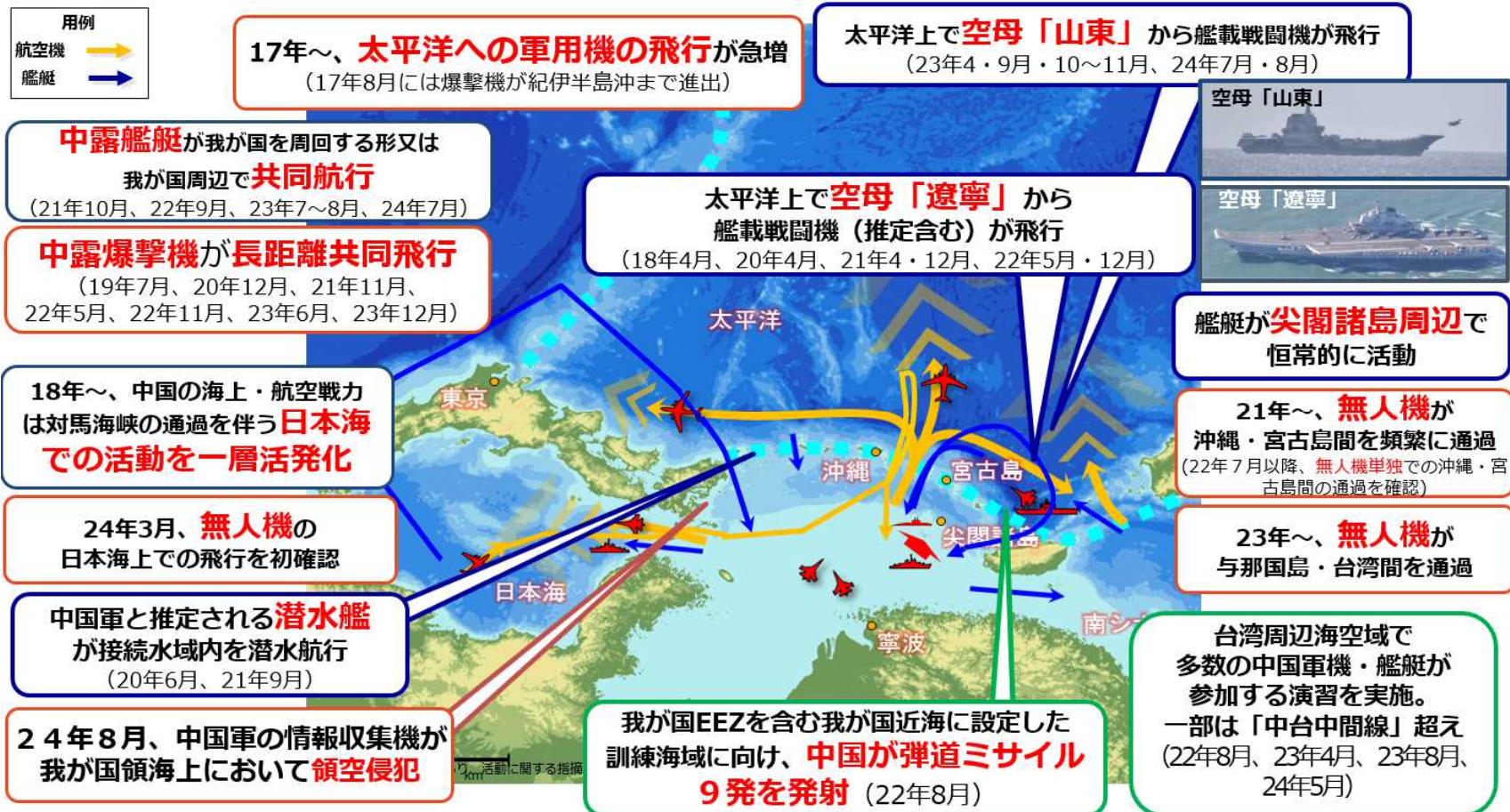
実施内容	①緊急時に安全に着陸するための垂直着陸訓練 (機種転換やその後の技量維持のため)	②緊急時の垂直着陸	③艦艇以外への着陸にかかる練度向上のための垂直着陸訓練	④艦艇への着陸にかかる練度向上のための模擬艦艇着艦訓練
実施場所	新田原基地			

- なお、④の実施には、馬毛島に整備予定の模擬艦艇発着艦訓練施設が必要なため、新田原基地で実施することは想定していません。

新田原基地におけるF-35Bの垂直着陸訓練の実施について

馬毛島の施設整備完了（令和11年度末）後の措置について（1/2）

- さらに、F-35Bの配備決定以降も、我が国を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増しているところ、我が国の防衛に万全を期すためには、F-35Bがその能力を発揮するための訓練を一層効果的・効率的に実施することが必要です。
- 令和5年度には、2個目飛行隊も新田原基地に配備することとしたことも踏まえれば、より充実した訓練を実施するため、**馬毛島の自衛隊施設が完成した後についても、①緊急時に安全に着陸するための垂直着陸訓練及び②緊急時の垂直着陸に加え、③艦艇以外への着陸にかかる練度向上のための垂直着陸訓練の一部を引き続き、新田原基地で実施させていただきたいと考えています。**



新田原基地におけるF-35Bの垂直着陸訓練の実施について

馬毛島の施設整備完了（令和11年度末）後の措置について（2/2）

- 馬毛島の施設整備完了後の訓練の実施場所を整理すると以下のとおりです。

実施内容	①緊急時に安全に着陸するための垂直着陸訓練（機種転換やその後の技量維持のため）	②緊急時の垂直着陸	③艦艇以外への着陸にかかる練度向上のための垂直着陸訓練	④艦艇への着陸にかかる練度向上のための模擬艦艇着陸訓練
実施場所	新田原基地			馬毛島の自衛隊施設

- これらに伴い、新田原基地において垂直着陸パッドの増設も検討しています。

スローランディングについて

- 今般F-35Bの導入にあたり運用要領についてあらためて見直したところ、雨天等で通常よりも長い滑走距離を要する状況で安全に着陸する場合等のため、**スローランディング**についても実施させていただきたいと考えています。
- 騒音の度合いとしては、通常の着陸に比べて大きい一方、垂直着陸よりは小さい見込みです。

新田原基地におけるF-35Bの垂直着陸訓練の実施について

垂直着陸訓練の頻度や騒音について

【垂直着陸訓練の頻度】 ※1機の機体が垂直着陸訓練を1回実施することをもって「1回の垂直着陸訓練」とカウントします

○ 頻度は検討中であり、また、1年の中でも時期により増減がありますが、以下の表のように検討しています。

F-35B 配備機数	令和7年度:8機 (F-35Bの配備開始)	令和11年度:30機 (馬毛島の整備完了前で新田原基地 での配備機数が最も多い年)	令和13年度頃:約40機 (令和11年度末予定の馬毛島整備完了後 かつ、2個目飛行隊完整時)	
垂直着陸訓練 の月平均回数 ※()は夜間訓練。内数。	新田原基地 約30回 (約10回)	新田原基地 約100回 (約40回)	新田原基地 約80回 (約20回)	馬毛島 約110回 (約50回)

※ シミュレータの導入を踏まえた回数。 ※ 現時点における計画であり、運用開始後の運用試験により変更はあり得る。

○ 夜間の垂直着陸訓練についても、緊急時の安全な着陸のための訓練や、艦艇以外への着陸にかかる練度向上のための訓練を、地元への影響に留意しながら、新田原基地で実施させていただきたいと考えています。

※なお、夜間の垂直着陸訓練の回数は各年度における上記の訓練回数の内数です

- ・ F-35Bが配備される令和7年度(8機)においては、月に平均10回程度、
- ・ 馬毛島の整備完了前の段階で、配備機数や操縦者数が最も多くなる令和11年度(30機を想定)においては、月に平均40回程度、
- ・ 馬毛島の整備完了後は、緊急時の安全な着陸のための訓練に限定し、月に平均20回程度の実施を見込んでいます。(馬毛島では月平均50回程度)

○ 1回の垂直着陸訓練の所要時間は約3分であり、例えば、5回実施する場合でも、訓練間の間隔を含め15～20分程度で実施可能なため、現在の夜間訓練の日数増加や、時間延長は考えていません。

【垂直着陸の騒音】 ※通常の着陸に比べ大きな音が発生する時間が3分程度、続きます

○ 個々の飛行の態様や気象条件により騒音は変動しうるものではありますが、2013年に米国で実施された調査の例では、着陸地点から約75mの地点で最大130デシベル、約300mの地点で最大110デシベルとなっていました。(米国文献より)